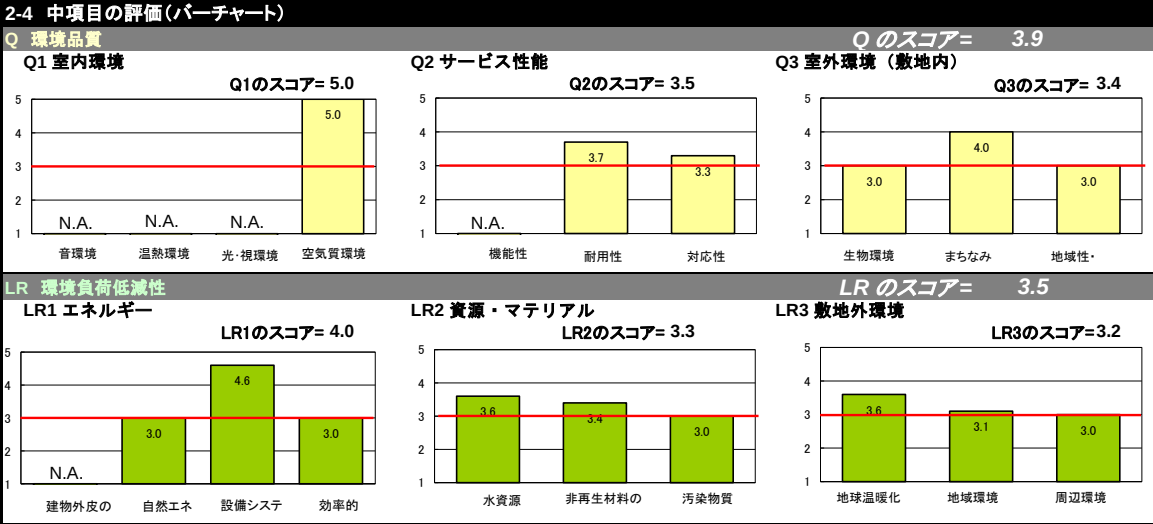
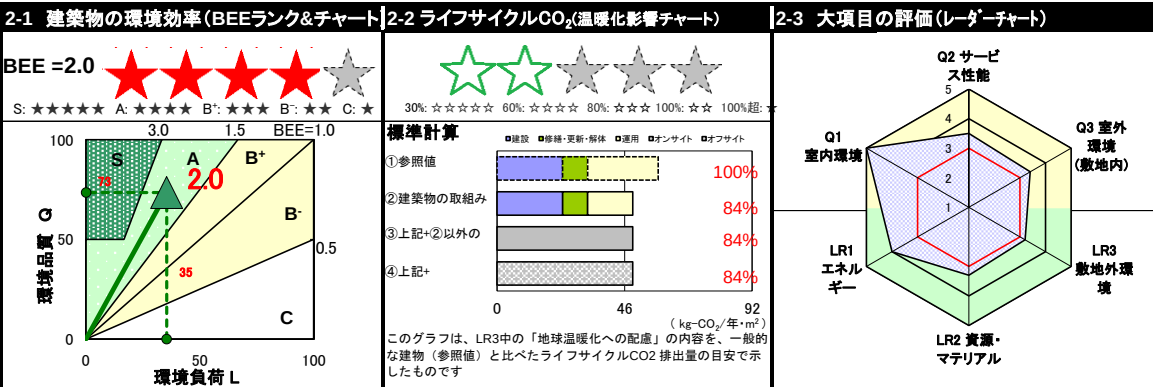




評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	豊橋田原ごみ処理施設整備・運営事業建設工事	階数		
建設地	愛知県豊橋市豊栄町字西530番	構造		
用途地域	指定なし	平均居住人員		
気候区分	7地域	年間使用時間		
建物用途	工場	評価の段階		
竣工時期	2031年3月 予定	評価の実施日		
敷地面積	45,145 m ²	作成者		
建築面積	5,973 m ²	確認日	2024年10月29日	
延床面積	16,414 m ²	確認者	栗山 直樹	



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 3.6 	③敷地内の緑化 3.0 	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		49.7 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
②資源の有効活用 3.4 	④地域材の活用 1.0 	0.0 %
		<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

豊橋田原ごみ処理施設整備工事新築建築工事

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階										
		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												3.9
Q1 室内環境							0.30			-	-	5.0
1 音環境						-	-	-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル						3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音						-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能						-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能						-	-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	3.0	-	-
1.3 吸音						-	-	-	-	3.0	-	-
2 温熱環境						-	-	-	-	-	-	-
2.1 室温制御						-	-	-	-	-	-	-
1 室温						3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 外皮性能						3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御						3.0	-	-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式						3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 光・視環境						-	-	-	-	-	-	-
3.1 昼光利用						-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率						3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口						3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 昼光利用設備						3.0	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策						-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御						5.0	-	-	-	3.0	-	-
3.3 照度						3.0	-	-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御						3.0	-	-	-	3.0	-	-
4 空気質環境						1.0	5.0	1.00	-	-	-	5.0
4.1 発生源対策						-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質						3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.2 換気						-	-	-	-	-	-	-
1 換気量						3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能						3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮						3.0	-	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理						1.0	5.0	1.00	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御						3.0	5.0	1.00	-	-	-	-
Q2 サービス性能						-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 機能性						-	-	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性						3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画					独自	3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性						-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)						3.0	-	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画						3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理						-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計						3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保						-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性						0.5	3.7	0.52	-	-	-	3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.8	0.48	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	4.0	0.80	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.5	0.33	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数						-	3.0	0.23	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					②	-	2.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						-	5.0	0.09	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						-	4.0	0.08	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						-	5.0	0.15	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						-	4.0	0.23	-	-	-	-
2.4 信頼性						0.1	4.2	0.19	-	-	-	-
1 空調・換気設備						3.0	5.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備						3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備					②	3.0	5.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法						3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備						3.0	3.0	0.20	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.4	3.3	0.48	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高4m以上確保。			-	5.0	0.60	3.0
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	3.0
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.40	-	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			独自③	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.64	3.0	4.6	0.63	-	-	4.6
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	3.6	0.15	-	-	-	3.6
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.3	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	4.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	3.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①	-	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	-	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	-	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動			独自	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

豊橋田原ごみ処理施設整備・運営事業建設工事

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策					3.6	
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10		3.4	
② 資源の有効活用						
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.16			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.14			
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19			
③ 敷地内の緑化					3.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	外構緑化:49.7%/建物緑化:0%		
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし		

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 豊橋田原ごみ処理施設整備・運営事業建設工事

計画上の配慮事項	
総合	一般市民が使用する管理棟ゾーン、一般搬入用受入ゾーンと、施設操業がメインの清掃・破砕処理ゾーンを分離し、利便性・安全性とともに周辺環境に配慮した配置計画としている。 建物外観は農村集落の原風景を損ねず、周辺の景観が引き立つよう、敷地や建築物が目立たないように「色彩」や「形態」を工夫することで建築物の存在感低減に努めた。
Q1 室内環境	外部に面する開口部には遮音等級T-2となるサッシや鋼製扉を採用して内部への騒音を防止している。 また、室内の科学汚染物質についてもF☆☆☆☆の製品を全面的に採用してシックハウス対策を考慮している。
Q2 サービス性能	事務室他居室の天井高は2.7mを採用し、圧迫感を低減している。また、適所に窓を設けることで開放感も確保しており、執務環境を高めている。 構造計画においては、重要度係数を1.25とすることで大地震に対する安全性を高めた施設としている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地南側にある既存樹木の「クロマツ」を主体とした「クスノキ等」の常緑高木を保全し、温暖だが風が強い敷地周辺の植生環境を考慮した。敷地周辺の「リスパ豊橋」や「伊古部海岸等」の植生環境に根付いた樹種を採用することで、地域の生態系と調和した潤いある環境づくりに努めた。
LR1 エネルギー	ごみの焼却熱によりタービンを回転させて発電している。電気は施設内施設への供給や売電により地域に還元している。
LR2 資源・マテリアル	節水型の便器やリサイクル材の採用を図っており、建物の主要構造を鉄骨とすることで解体時に再利用しやすくするなど資源について配慮した計画としている。
LR3 敷地外環境	ごみの焼却後の排ガスについては、様々な設備により現行の排出基準より大幅に低い大気汚染物質として処理している。
その他	特になし。